

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう				
------	------	-------	-----------------------------------	--	--	--	--

学習内容	柔道整復学総論（骨折、脱臼）を学ぶ。						
到達目標	柔道整復師国家試験に対応できるように骨折、脱臼について説明できるようになる。						

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習が必要。						
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。						

成績評価	前期中に3回小テストを実施する。期末試験70%+小テスト30%で評価する。						
------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	人体に加わる力	柔道整復学を学習するうえで必要な人体に加わる力について説明することができる。
2	損傷時に加わる力	柔道整復学を学習するうえで必要な損傷時に加わる力について説明することができる。
3	骨の形態と機能	柔道整復学を学習するうえで必要な骨の形態と機能について説明することができる。
4	骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明することができる。
5	骨折の分類	骨折の分類について説明することができる。
6	骨折の症状	骨折の症状について説明することができる。
7	骨折の合併症	骨折の合併症について説明することができる。
8	小児骨折	小児骨折について説明することができる。
9	高齢者骨折	高齢者骨折について説明することができる。
10	骨折の治癒日数	骨折の治癒日数について説明することができる。
11	骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明することができる。
12	骨折の予後	骨折の予後について説明することができる。
13	骨折の治癒に影響を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子について説明することができる。
14	脱臼	脱臼について説明することができる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）に対する基礎的知識の習得ができる。臨床現場において指導管理及び初期処置、外傷予防の理念を理解し活用できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の沿革	柔道整復師の歴史、業務範囲についての説明ができる。
2		解剖学用語、器官の定義	人体における位置や方向についての用語を説明できる。器官の分類、定義の説明ができる。
3		治療法 1	骨折の整復法について整復時の配慮の理解と説明ができる。
4		治療法 2	骨折の整復法について整復法の分類、適応、不適応の理解と説明ができる。
5		治療法 3	脱臼の整復法について整復法の分類、適応、不適応の理解と説明ができる。初期処置（RICE）の意味の理解、説明ができる。
6		治療法 4	固定法についての配慮、目的、範囲、期間、肢位等の理解と説明ができる。
7		治療法 5	固定法についての指導管理の理解と説明ができる。
8		治療法 6	手技療法の分類、目的、配慮、禁忌についての理解、説明ができる。基本的手技が行える。
9		治療法 7	運動療法の配慮、基本型について説明できる。
10		治療法 8	運動療法の種類、応用、禁忌についての理解説明ができる。
11		指導管理	外傷患者に対する日常生活動作、患者環境に対する指導管理の内容の理解と説明ができる。
12		外傷予防 1	外傷予防の分類と外傷予防の第 1 段階の意味、内容が理解説明できる。
13		外傷予防 2	外傷予防の第 2 段階の意味、内容（早期発見、早期治療）が理解説明できる。
14		外傷予防 3	外傷予防の第 3 段階の意味、内容（悪化防止など）が理解説明できる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	牧之瀬 泰佑	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解する。 各組織の損傷から治癒に至る経過の理解をする。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	自己紹介（自分の経験した怪我）	柔道整復師の仕事がマッサージではなく、外傷を治す仕事であることを認識する	
2	関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。	
3	関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。また機能を把握する	
4	概説・損傷する組織 1	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する	
5	概説・損傷する組織 2	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する	
6	筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
7	筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
8	腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
9	腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
10	末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する	
11	末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する	
12	血管・リンパ系・皮膚損傷 1	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
13	血管・リンパ系・皮膚損傷 2	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
14	試験対策	前期の範囲を振り返り前期試験に自信を持って挑めるようにする	
15	試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する	

科目名 【英】	柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第3版（南江堂）
留意点 備 考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	細胞 1	細胞内小器官の役割を知る。 グループワークを行い、小器官の特徴を説明できる。	
2	細胞 2	物質移動の基本を知る。 人に説明できる。	
3	血液 1	成分とその役割を知る。 それぞれの特徴を知り、分類分けができる。	
4	血液 2	構造と機能を理解し、人に説明できる。	
5	心臓 1	解剖学的な構造を知り、説明できる。	
6	心臓 2	心臓が動く仕組みを知り、説明できる。	
7	心臓 3	心周期について知り、説明できる。	
8	脈管 1	上行大動脈～上腕動脈までの繋がりを知り、説明できる。	
9	脈管 2	上肢、頭部、胸腹部の繋がりを知り、説明できる。	
10	脈管 3	下肢の動脈の繋がりを知り、説明できる。	
11	脈管 4	全身の動脈の繋がりについて知り、説明できる。	
12	脈管 5	静脈について知り、説明できる。	
13	脈管 6	門脈系について知り、説明できる。	
14	脈管 7	胎児循環について知り、説明できる。	
15	総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。	

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第3版（南江堂）
留意点 備考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。
2		消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。
3		消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。
4		消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。
5		消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。
6		肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できる。
7		肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できる。
8		栄養と代謝	代謝の基本を知り、説明できる。
9		栄養と代謝	エネルギー代謝、基礎代謝について知り、説明できる。
10		泌尿器	腎の構造について知り、説明できる。
11		泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できる。
12		泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できる。
13		泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。
14		泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。
15		総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	月曜日	時限	3.4

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	頭部・顔面の解剖と機能	頭部・顔面の解剖と機能について説明することができる。	
2	頭部・顔面の骨折	頭部・顔面の骨折について説明することができる。	
3	顎関節脱臼	顎関節脱臼について説明することができる。	
4	頭部・顔面の軟部組織損傷	頭部・顔面の軟部組織損傷について説明することができる。	
5	頸部の解剖と機能	頸部の解剖と機能について説明することができる。	
6	頸部の骨折	頸部の骨折について説明することができる。	
7	頸部の骨折	頸部の骨折について説明することができる。	
8	頸椎脱臼	頸椎脱臼について説明することができる。	
9	頸部の軟部組織損傷	頸部の軟部組織損傷について説明することができる。	
10	注意すべき疾患	注意すべき疾患について説明することができる。	
11	鎖骨骨折	鎖骨骨折について説明することができる。	
12	鎖骨骨折	鎖骨骨折について説明することができる。	
13	鎖骨脱臼	鎖骨脱臼について説明することができる。	
14	口頭試問	後期授業範囲の内容を口頭で説明することができる。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論2 Clinical Judo Therapy Basic2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。
2		肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3		上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。
4		上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。
5		上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。
6		肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。
7		肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。
8		肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。
9		肩関節部の軟部組織 損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。
10		肩関節部の軟部組織 損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。
11		肩関節部の軟部組織 損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。
12		肩関節部の軟部組織 損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。
13		肩関節部の軟部組織 損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。
14		口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。
15		試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論3 Clinical Judo Therapy Basic3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	3.4

担当教員	牧之瀬 泰祐	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。
2	胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。
3	胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。
4	胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。
5	その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。
6	注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。
7	腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。
8	腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。
9	腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。
10	腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。
11	上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。
12	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
13	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。
14	口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	火曜日	時限	1.2

担当教員	岩重 尚人	実務者経験	H18年整形外科勤務、H24より専任教員として勤め、現在に至る。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を骨盤部・股関節部・大腿部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	骨盤部の損傷	骨盤部周辺の構造と機能について説明できる。
2	骨盤骨骨折	骨盤骨単独骨折について説明できる。
3	骨盤骨骨折	骨盤骨輪骨折について説明できる。
4	股関節部の損傷 大腿骨近位端部骨折	股関節部の損傷、大腿骨近位端部骨折について説明できる。
5	大腿骨近位端部骨折、股関節脱臼	大腿骨近位端部骨折、股関節脱臼（後方脱臼）について説明できる。
6	股関節脱臼	股関節脱臼（前方脱臼、中心性脱臼）について説明できる。
7	股関節の軟部組織損傷	鼠径部痛症候群について説明できる。
8	股関節の軟部組織損傷	股関節唇損傷、ばね股について説明できる。
9	股関節の軟部組織損傷	梨状筋症候群について説明できる。
10	乳幼児、思春期にみられる疾患	乳幼児、思春期にみられる疾患について説明できる。
11	大腿骨頭壊死症 変形性股関節症	大腿骨頭壊死症、変形性股関節症について説明できる。
12	大腿部の損傷 大腿骨骨幹部骨折	大腿部の損傷、大腿骨骨幹部骨折 について説明できる。
13	大腿の軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿部の肉離れ、大腿部骨化性筋炎について説明できる。
14	口頭試問	口頭により骨盤部・股関節部・大腿部の障害について説明できる。
15	試験解説	前期試験解説